

中国の大学の日本語教科書における登場人物の設定に関する研究¹

朱 桂 栄*・彭

子 燕**・楊

鎔 溪***

1. はじめに

外国語教育において、一部の教科書は登場人物を設定することを通して、言語使用や異文化交流などの場面や内容を示す。学習者も教科書に描かれた登場人物を通して、様々な学びを展開し成長していく。教科書における登場人物の設定は、学習者の言語学習だけでなく生活全般に影響を与える可能性もある。教科書は、教育的役割を果たすと言われるが、教科書における登場人物の設定もその一役を担うと言えよう。

中国における外国人向けの中国語教科書の中の人物設定に関する研究によると、初期の中国語教科書の会話場面では、登場人物をAとB、甲と乙のように扱ったことが多かったが、その後、国籍や身分、性格などを持つ人物設定に変わった(劉弘・孔夢蘇2014)と指摘されている。もちろん、非母語話者の学習者にとって、具体的な人物を設定することは学習者の言語学習に深い印象を残しやすい。しかし、あまりに設定を具体的にすれば、様々な問題も起こりうる。本研究は、外国人向けの一部の中国語教科書研究の成果を踏まえながら、日本語教科書編集の基礎研究として、中国の大学の日本語教科書における登場人物の設定に焦点を当て、その内部的体系性と外部的有効性について検討する。

2. 先行研究

朱勇・張舒(2018)は、外国人向けの中国語教科書を研究し、教科書における人物設定は、「内部的体系性」と「外部的有効性」という二つの原則があると指摘している。

「内部的体系性」は、(1) 描かれた登場人物の性格が物語の展開と関連がある、(2) 登場人物は豊かな人間関係や多様な個性を持つ、という2点を指す。これに対して、「外部的有効性」は、以下の3点を指す。(1) 登場人物に真実味があることである。真実味とは、登場人物の行動や考え方がその地域、国、性別、年齢、身分、職業などの特徴を反映すること、その人物が完璧ではないことと時代の特徴を反映することを意味する。(2) 登場人物が文化性を持つことである。文化性とは、登場人物はその国の文化や価値観や行動方式を反映することを意味する。(3) 登場人物は異文化性を持つことである。言い換えれば、物語の展開とともに、異なる文化背景や性格を持つ登場人物が異文化間の葛藤や問題などを解決していくことが期待されている。これらの指摘は、その他の外国語教科書における登場人物の設定に関して研究する場合でも活かすことができるとと思われる。

このほか、劉元満(2017)は、外国人向けの中国語教材に関する諸論文をレビューし、言語的な内容に関する研究が重視されているが、教科書の中の人物設定や人物関係、物語の展開に関する研究はまだ浅いと指摘している。さらに、文法、機能、話題、場面などの要素を総合的に配慮するな

* 北京外国語大学北京日本学研究中心・准教授

** 同・院生

*** 同・院生

らば、登場人物の効果的な設定と描写、物語の合理的な展開が不可欠であると指摘している。

一方、日本語教科書の場合はどうであろうか。吉岡・本田（2016）は日本では90年代には最初に登場人物の名前や国籍、職業などを載せておくことにより、各課の会話の人間関係や状況が容易に正確に理解できるようにした教科書が多くなったと述べている。一方、朱鵬霄・于棟楠（2023）は、中日の日本語教科書研究の比較分析を行い、その結果、中日両国の日本語教科書への内容分析は、いずれも言語知識に集中し（90%以上）、教科書の中の文化的な内容・価値観・イメージの構築などの非言語的知識に関する研究は極めて乏しい（10%未満）と指摘している。

中国では、21世紀に入ってから日本語教育教科書の作成が急速に行われているが、全体的に教科書研究は遅れている（朱鵬霄・于棟楠2023）。本研究は日本語教科書における登場人物の設定を研究するものであり、教科書におけるイメージ構築の研究に属する。本研究の結果は、中国の日本語教科書研究の充実に役立つだけでなく、日本語教科書の編集にも価値のある情報を提供できると期待する。

3. 研究対象

本研究では、彭広陸、守屋三千代を総編集者とし、北京大学出版社によって出版されたシリーズ教材である《综合日语》（以下『総合日本語』と呼ぶ）（第一冊～第四冊）を研究対象とする。この教科書は、中国の大学の日本語専攻の「基礎日本語」という主幹科目に使われる教科書である。教科書の対象者は、大学に入ってから日本語を習い始める大学生である。

この教科書を選定した理由は、主に以下の2つである。一つ目は、『総合日本語』は、中日両国の専門家が協力して編纂したもので、日本語専攻の基礎段階の教科書として代表的なものの一つで

あり、2004年に第一冊が初版されて以来、中国の日本語教育界で広く注目されているからである。二つ目は、『総合日本語』には固定的な登場人物の設定と物語の発展があり、本研究の研究対象としてふさわしいと思われるからである。

この教科書は2009年から2011年までの間に再版され、2022年から3回目の改訂が行われている。現在、最新版の教科書がすべて出版されていないため、本研究は第2版の教科書を分析対象とする。

『総合日本語』の使用について、日本語専攻の大学1年生が第一、二冊（合計30課）を使い、2年生が第三、四冊（合計20課）を使うのが一般的である。そのうち、第一、二冊の背景設定は中国国内である。最も主要な登場人物は日本語学科の王宇翔と日本人留学生の高橋美穂で、ほかには李東、鈴木真一などの登場人物もある。第三、四冊の背景設定は日本で、王宇翔の留学生生活を巡って展開されている。

4. 分析方法

本研究は、上述した朱勇・張舒（2018）が提唱した「内部的体系性」と「外部的有効性」という2つの原則に依拠し、『総合日本語』における登場人物の設定を分析する。「内部的体系性」について、教科書における登場人物の性格は一貫性があるかどうか、4冊にわたって、登場人物の成長や発展があるかどうかを教科書内容に基づいて分析する。そして、「外部的有効性」について、登場人物は真実味、文化性、異文化性という三つの側面から事例を挙げながら分析する。

文中での表記の仕方について、例えば、（四（13）①）は第四冊の第13課のユニット1を表す。そして、登場人物をそれぞれ王、高橋、李、鈴木のように苗字だけで呼ぶ。

なお、3名の共同研究者は『総合日本語』の4冊を繰り返して精読したうえで分析に臨んだ。うち2名は、大学時代に『総合日本語』を教科書とし

て2年間学んだ経験がある。

5. 分析結果

以下、『総合日本語』における人物設定の「内部的体系性」と「外部的有効性」についての分析結果を述べる。

5.1 「内部的体系性」についての分析

本研究は人物設定の「内部的体系性」について、それぞれ登場人物の性格の一貫性と人物の成長、及び登場人物の関係性の視点から分析する。

5.1.1 登場人物の性格の一貫性と登場人物の成長

(1) 王宇翔について

王は京華大学外国語学部日本語科の2年生で、出身地は長春で、趣味は料理、運動と旅行である。人がよくて真面目で優秀である。将来、国際文化交流の仕事に携わろうとしている。王という人物設定は、大学1年生の日本語学習者から見て、一種の先輩のような存在である。第一、二冊の中に、王が日本人留学生の高橋や他の友達と出会い、一緒に勉強したり、北京の名所を回ったりすることが描かれた。このような大学生活への設定は、日本語学習者に親近感を与えやすいだろう。また、道で人を助けた（二（17）①）ことから王の優しさが分かる。将来、国際的な仕事をしたいと語った（二（20）②）ことから王の志が分かる。そして、王が留学のための面接を受けた（二（24）①）ことも描かれた。

第三、四冊の中に王の交換留学が実現したことが描かれた。空手部に入った（三（2）①）王は日常生活においても授業においても積極的に文化交流を行っている。例えば、高橋と再会する時に、電車で化粧をする女子を見かけたことを話したり（三（4）①）、茶道教室で中日のお茶について話し合ったり（三（6）①）、大家さんとの異文化における葛藤を経験したり（三（7）①）した。ほかには、沖縄で空手大会に参加したり（四（13）

①）、日本の中学校を訪問し、中学生たちと中日文化について交流したり（四（14）①）、日本人の子供に中国語を教えることを約束したり（四（15）①）、日本人に中国語と日本語の違いなどを教えたり（四（17）①）、歓送会で落ち着いてスピーチをしたりした（四（20）①）。

これらの設定は連続性があり、中国の大学で王が日本語をだんだん身に付け、将来を考え始め、努力しているがやや自信不足の姿が描かれている。これは、多くの日本語学習者と重なるだろう。また、日本に来てから積極的に文化交流を行い、自ら中国文化を発信し、ますます自信を持つようになった王の姿が日本語学習者に新たな夢を与えることができるだろう。

(2) 高橋美穂について

高橋は京華大学の中国語研修コースに在籍する学生である。東京生まれで、情熱的で明るい性格の持ち主で、趣味は戯曲、映画と音楽である。芸術大学に入り、中国の戯曲を習う予定である。高橋は京華大学で王をはじめ、多くの友達に出会い、徐々に中国の生活に慣れていく。例えば、趙にキャンパスの案内（一（6）①）、王に中国の大学の時間割の紹介（一（6）②）、鈴木、王、李に学校の周辺の案内（一（8）①）などをしてもらった。また、高橋は王と一緒に中国の料理を食べたり、北京の名所を回ったりした（一（10）①&②）。

教科書の中で、高橋の中国語の勉強や中国文化の体験も描かれた。例えば、高橋が中国語の聞き取りと発音が難しく感じ、王と相互学習パートナーになり、一緒に勉強することになった（一（7）②）。そして、クラスで中国の戯曲について発表したり（一（8）②）、王に誘われて中国の京劇を見たり（一（14）①）、将来舞台に関わる仕事をしたいと言ったり（一（14）②）、クリスマスコンパでかぐや姫の主役を演じたりした（一（15）②）。そして、王宇翔の家で春節を過ごしたり（二（16）①）した。

これらの物語設定は、高橋の趣味や性格と一致

していると言える。物語の展開が自然であるため、学習者は高橋を自分の周りの日本人の友達のように思っても過言ではない。このように、教科書に描かれた中国人学生と日本人留学生との接触は、学習者に異文化交流を学ぶ機会を提供したと言える。また、王が高橋に少し恋心を持っているという設定はドラマ性を高め、若者の心理や気持ちに通じやすいだろう。

(3) 李東について

李は京華大学電子工学部の2年生で、日本語を第二専攻として学ぶ。趣味は音楽、漫画と旅行である。出身地は上海で、率直でユーモアのある人である。将来、最高のゲームソフトの開発を志している。教科書の中で、李は毎日ネットカフェに行き、よくゲームをする（一（8）①）ことや、宝くじが当たりゲーム制作のできるコンピュータを買うほかに、ゲーム会社を始める資金にすると述べた（二（22）②）ことや、弁論大会で優勝したら秋葉原に行ってゲームソフト開発のヒントを見つけないと言った（二（23）①）ことが描かれた。そして、日本で憧れのアニメ監督に会えた（三（8）①）ことも描かれた。これらの設定は一貫性があり、主人公の李の趣味と一致している。李という人物設定は、日本語学習者に夢を追い続ける若者の姿を描いてくれたと言える。

(4) 鈴木真一について

鈴木は京華大学で中国の歴史を専攻し、高橋の高校時代の先輩である。出身地は北海道で、趣味は旅行と読書である。鈴木は高橋を王に紹介した時、「高橋さんは彼女ですか」と王に聞かれ、「ええ、まあ」とごまかし、暗に高橋のことが好きであることが描かれた（一（1）①）。

『総合日本語』における人物設定の不足は、主に鈴木の設定に表れている。例えば、鈴木は性格設定は「おっちょこちょい」であるが、それを表現する場面は、鈴木が授業時間を間違えて遅刻したことだけである（一（6）②）。さらに、北京の仲間たちが空港で帰国した王を迎える場面で、

「みんな来てくれたんだ！」という王の言葉に対し、鈴木が「違うよ、王さんじゃなくて、お土産を待ってたんだよ」（四（20）①）と言ったのは、鈴木は性格と一致せず、冗談好きな李の発言のようである。登場人物が物語の中で成長し発展するものであるが、説明が足りないと、鈴木の性格の急な変化に違和感を抱きやすいだろう。

まとめてみると、全体的に『総合日本語』における人物設定は、学校生活で出会いそうな人物が多く、日本語学習者にとって親しみを感じやすいものと言えるだろう。そして、これらの人物設定は、鈴木という人物設定にやや唐突さがある以外、総じて言えば一貫性があり、人物の性格が物語の展開と関連している。またそれだけでなく、日本語学習者の生活の一部とも一致している。このように、学習者は日本語教科書を通して複数の主人公と出会い、様々な異文化の疑似体験をすることができよう。

5.1.2 登場人物の関係性

朱勇・張舒（2018）は、教科書における登場人物は、豊かな人間関係や多様な個性を持ち、様々な角度から登場人物の間の複雑な関係と多様な個性を表現し、物語の展開を導くべきだと述べている。

図1のように、『総合日本語』における登場人物大多数は、王宇翔と関わりのあるネットワークを結成している。大きく分けて、北京での仲間たちと日本留学の仲間たちに分けることができる。その中には、王と高橋のような友達関係、王と李のような同級生関係、高橋と鈴木のような後輩と先輩の関係、高橋と両親のような家族関係などがある。ほかには、学生と先生の関係、部活の先輩と後輩の関係、客と店員の関係、患者と医者などの多様な関係がある。特に主人公の王は高橋のことが好きである一方、鈴木も高橋のことが好きであることから、3人が友達でありながら恋愛のライバルでもある関係にはドラマ性があり、大学生たちの青春物語を描くことに成功している。

このように、登場人物の強固なネットワークに

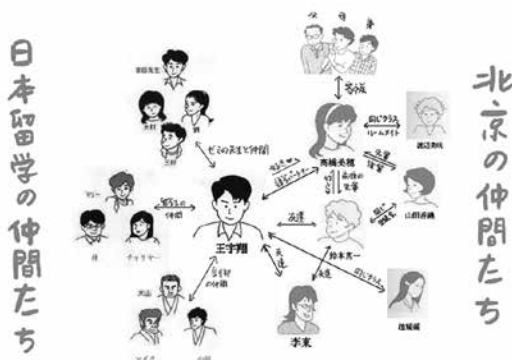


図1 登場人物の関係図

より、『総合日本語』の内部的体系性を保つことができたと言えよう。そして、多様な関係性は、物語の展開の基礎を固めただけでなく、様々な関係性を持つ人たちの会話が作成され、学習者にコミュニケーションを学ぶ時に必要な豊かな場面と内容を提供できたと言えよう。

5.2 「外部的有効性」についての分析

本研究は人物設定の「外部的有効性」について、それぞれ登場人物の真実味、文化性、異文化性の側面から、事例を挙げながら分析する。

5.2.1 登場人物の真実味

前述のように、登場人物の真実味とは、登場人物の行動や考え方がその地域、国、性別、年齢、身分、職業及び時代の特徴を反映しなければならない。そして、完璧な人である必要もない。以下、『総合日本語』における登場人物の真実味を事例を通して見てみよう。

例えば、高橋、渡辺、李東、趙の4人は寮のルールについて話し合い、李は「窓からごみを捨ててはいけない」というルールに、「人が下を歩いているときに、窓からごみを捨ててはいけない」とふざけて言ったのを友達に趙に注意された(一(13)①)。このエピソードは、李の冗談好きなどところを生き生きと描いている。

また、王の「人が良くて真面目で優秀である」という設定は、『総合日本語』の4冊を通して貫い

ているが、彼の抜けている一面も見せてくれた。例えば、コンサートに行く時スマホを忘れたり(二(17)②)、遠足に行く時弁当を忘れたりした(二(20)②)。これらの欠点への描写は、王という登場人物の真実味を増したと言えよう。

一方、高橋は優しい人柄であるが、怒ることもある。例えば、王がコンサートに遅れた時、高橋は王が連絡しなかったことに不満を感じた(二(17)②)。その後、王が病気になる高橋を見舞い、高橋は前回、自分が怒ったことに対し、王に謝り(二(18)②)、日記の中に見舞いに来てくれた王に感謝することを書いた(二(18)③)。このような一連の展開を通じて、高橋の正直なところと優しさが鮮明に表現されている。

人物設定の真実味に関して、その人物が置かれた時代背景に合致することも重要である。例えば、王は将来、中日交流に関連する仕事をしたいと、中日交流の架け橋になると志し、李は最高のゲームソフトを開発したいという夢を持っている。このような人物設定は、新しい時代の人々の思考や行動の変化を反映し、社会変化が人々に与える影響を表現しようとしている。

もちろん、『総合日本語』の中には真実味を十分に表した事例ばかりでなく、真実味がやや欠けている事例もある。例えば、高橋の日記(一(7)③)と、高橋が日本の先輩に宛てた手紙(一(11)③)は、実際の日本人大学生が母語で書いた日記や、母語話者同士のコミュニケーションと、言葉の難しさや表現の仕方などの面においてやや異なっている。初級の学習者向けなので、用語や文型が簡略化されたのも理解できるが、教科書の真実味を考慮するならば、例えば、第9課のように日本で交換留学をしている中国人学生の「留学日記」(一(9)③)などを採用したほうが、書き手と読み手の距離においても、言葉の難易度においても、より学習者に寄り添ったものになるだろう。このように、教科書を編集する際に、人物設定とその言語使用の真実味を特に考慮すべきであろう。

5.2.2 登場人物の文化性

朱勇・張舒（2018）は、文化現象と文化的風習の中には深い文化的な意味が含まれ、学習者が深い文化的意味を理解してはじめてコミュニケーションに成功すると指摘している。登場人物の文化性は主に登場人物の考え方や行動方式に現れている。

例えば、『総合日本語』第三冊の第6課の会話文では、王が茶道を習う時、うっかり茶碗を割ってしまったことに対し、茶道の先生は「茶碗というのは、いつかは割れるものだ」と王に伝えたことである。これは茶碗が割れやすいものだという理由で王を慰めたのだが、実際にはどんな物品も使用期限があるというより深い考え方を示し、日本人の価値観を表している。

また、第一冊の第14課の会話文で演劇が好きな高橋が日本の歌舞伎や宝塚について王に紹介したことや、王が高橋を誘って京劇を見に行ったことや、第一冊の第15課の会話文で王と高橋が中国の春節と日本のお正月の過ごし方について話し合うことなど、それぞれの国の文化が描き出された。このように、日本語学習者は登場人物の考え方や行動方式を通して、言葉の使用だけではなく、文化を理解する手がかりを得られるだろう。

5.2.3 登場人物の異文化性

言語と文化は密接な関係がある。異なる文化の人たちのコミュニケーションにおいて、文化的な差異が大きな影響を与える。一方、同じ国でも個人差があり、それに気づかないと、ステレオタイプも生じやすい。朱勇・張舒（2018）は、教科書に同じ国の異なる特性の人物を設定することで、その国の文化の一般的な側面と独特な側面の両方を反映し、ステレオタイプの打破にも役立つと指摘している。それでは、『総合日本語』の中の登場人物の異文化性を見てみよう。

『総合日本語』の中には複数の中国人が設定された。勤勉で優秀な王宇翔、率直でおとぼけキャラの李東がいる。同様に、日本人の中にも情熱的

で積極的な高橋もいれば、おっちょこちょいな鈴木や、時間にルーズでよく遅刻する三好もいる。このような設定は、ある国の人に対するステレオタイプを緩和するのに必要なことであろう。

ほかには、教科書の中に中国や、アメリカ、フランス、タイ、韓国出身の留学生が設定され、異文化交流の情景がリアルに作られた。例えば、第三冊の第7課の会話文では、留学生の劉が、作った餃子を大家さんに送ったら、大家さんが「お返し」にリングを三つくれたことに対し困惑と不満を感じた。談話室でタイや韓国、また中国からのほかの留学生とそのことについて話し合い、日本人の三好が加わって、日本人の立場から「お返し」について説明した話が描かれた。教科書の中に、このような真実味のある事柄を通して、文化の多様性と異文化交流の難しさを示したと言えよう。しかし、教科書では、この会話文について「不満の表し方」「共感の求め方」「婉曲的な意見の表し方」「納得する、諦める気持ちの表し方」など言語面の説明はあったが、タスクを通して学習者に異なる登場人物の考え方や発言についてどう思っているかを聞き出し、この種の異文化葛藤にどう取り組むかについての指導は設計されていない。

まとめてみると、『総合日本語』の外部的有効性については、より真実味のある登場人物の設定及び登場人物の考え方や行動方式に現れた文化性と異文化性により、ある程度保障されていると言えよう。ただし、教える側の教師と学ぶ側の学習者がこれらの人物設定を意識しているのか、どう見ているのか、活かしているのかといった面においてまだ課題が残されているようである。

6. おわりに

2020年に中国で発表された《普通高等学校本科外国语言文学类专业教学指南》（『大学の外国語専攻における教育の手引き』（筆者訳）によると、異文化コミュニケーション能力は日本語専攻の学

生の必要な能力である。外国語教科書は外国の文化を紹介し、様々な価値観を提示する重要な存在である。外国語教科書は学び手が多く、影響力の大きい学習材料とも言われている。従って、外国語教科書の編集の質が保証されなければならない。その中で、固定的な登場人物のある教科書の場合、その人物設定に関して「内部的体系性」と「外部的有効性」という2つの原則がある。

本研究は、中国の教科書研究の充実及び教科書編集の質的向上を期して、中国の大学で広く使われている『総合日本語』における登場人物の設定について「内部的体系性」と「外部的有効性」という2つの原則にしたがって検討した。分析した結果、以下のことが示された。

『総合日本語』における登場人物の設定の内部的体系性が保証されていると言える。まとめていうと、それらの人物設定は、基本的に性格上の特徴が鮮明であり、4冊にわたる一貫性があり、人物の性格と物語の展開と関連性を持っている。そして、「中国の大学での学び→日本への留学→中国への帰国」という一連の設定の中で、登場人物の成長と変化が見られ、ドラマ性がある。このような設定は日本語学習者の成長と重なる部分が多く、学習者に登場人物と共に成長するという親近感を与えやすいだろう。そして、主人公の王を巡って、中国と日本という二つの舞台で様々な個性や文化的背景を持つ人物の参加により、国際的で多彩な異文化交流が展開されている。それは学習者に異文化交流を学ぶ場と事例を示し、学習者の言語学習と異文化理解において有意義であろう。

上述した内部的体系性だけでなく、『総合日本語』における人物設定の外部的有効性を見ると、設定された人物は生き生きとしていて長所もあれば欠点もある。様々な物語の発生が中日の大学キャンパスによくある青春物語のようなもので、一定の真実性があると言える。また、一人ひとりの登場人物の思考や行動に時代の特徴や、それぞれの文化背景などを反映している。さらに、異

文化間の衝突が描かれている。このようなことで、この教科書における人物設定の外部的有効性がある程度保証されていると言える。

このような登場人物の設定は、学習者の言語学習と異文化理解に豊かな情景を提供したと言える。もちろん、それらの人物設定が実際の学習活動に活かされることも重要である。この点に関して、『総合日本語』の編集にはまだ改善の余地があると思われる。

本研究は教科書編集という視点から『総合日本語』における人物設定について検討した。しかし、教育現場において、日本語教師として教科書における登場人物の教育的価値を重視し、教科書を創造的に活用し、登場人物と関わりのある教育活動をデザインすることも重要であろう。

今後、教科書使用という観点から、日本語教師が『総合日本語』を使って授業を進める時、どれだけ教材の中の人物設定を意識し、そして意図的に日本語の学習活動に活かしているのかを追究したい。

注

- 1：本研究は北京外国語大学“中日两国大学外语教材‘国家形象’比较研究”の一部である。

参考文献

- 刘弘, 孔梦苏. 对外汉语教材中虚拟人物的刻板印象研究 [J]. 语言教学与研究, 2014 (1).
朱勇, 张舒. 国际汉语教材中国人物形象自塑研究 [J]. 华文教学与研究, 2018 (3).
朱鹏霄, 于栋楠. 中日两国日语教材研究的现状对比与启示 [J]. 外语学刊, 2023 (1).
朱桂荣. 近十年国内日语教育研究动向与展望 (2006 - 2016) [J]. 高等日语教育, 2018 (1).
刘元满. 汉语教材中的人物关系及话语得体性分析 [J]. 国际汉语教学研究, 2017 (2).
教育部高等学校外国语言文学类专业教学指导委员会. 《普通高等学校本科外国语言文学类专业教学指南》 [M]. 外语教学与研究出版社, 2020.
吉岡英幸・本田弘之 (編) 『日本語教材研究の視点—新しい教材研究論の確立をめざして』くろしお出版. 2016.